

中央アルプス 念丈岳～安平路山

田村

【日時】 2008年2月7日(木)～10日(日)

【メンバー】 田村(単独)

三連休につなげてリフレッシュ休暇をとることになった。しかし平日何日も休める人がいるはずもない。悩んだ末、単独で行くことにした。行先は、前からずっと行きたかった安平路山。足回りはスノーシューを使った。

水曜夜の地下鉄に大荷物を持ち、ラッシュの中を何とか新宿へ。高速バスターミナルに入ると、もうそこは旅の空気一杯だった。酒と食べ物を買って乗り込み、東京の灯を見送る。あっという間に松川インター、バス停を降りると、澄んだ空気に満天の星空で、自然とうれしくなる。15分ほど歩き、ビジネスホテルに泊まる。

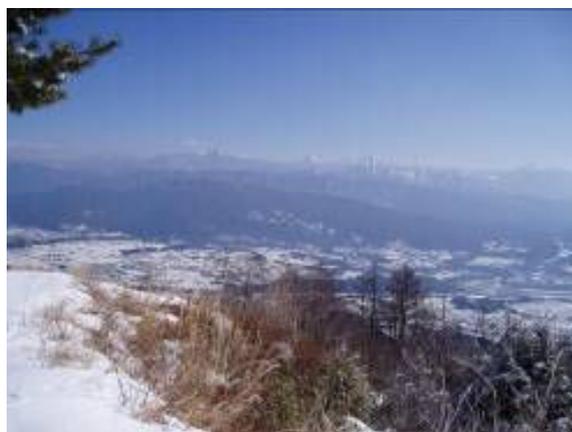
2月7日 晴

朝、ホテルの玄関を出ると、これから辿ることになる山並みがすぐそこに見えて、いよいよ気持ちが高まる。予約していたタクシーに乗るが、数日前に降った雪のため、鳩打峠はおろか、麓の片桐神社で降ろされてしまった。標高差で300mほども余分に歩くことになるが、仕方がない。幸い車の轍があり、鳩打峠までは楽に行けた。

轍があるからトレースが付いているかと少し期待したのだが、甘かった。轍は峠でそのままUターンしていて、運転手が下車した痕跡は一つもない。まあ、トレースがあったら興ざめか。

小八郎山まではせいぜい膝下までの雪で、予定通りのスピードで進む。小八郎山の山頂からは飯田盆地が眼下にのびやかな広がりを見せ、その向こうに南アの山なみが延々と連なっている。自然が作り上げた大きな造形の中で、人間の営みはこの盆地の底で、表面をひっかいた程度のものに見える。

ここまでは順調だったが、この先、雪がだんだん深くなり、藪がうるさくなり、所々に左にガレがあって歩きづらくなる。さらに烏帽子岳の手前は急登が続き、蹴り込めないスノーシューはズルズル滑る。いちいち脱ぐのは面倒なので、そのまま木登りで突破する。夕暮ぎりぎりまで頑張ったが烏帽子の山頂にはたどりつけず、大岩の際にかろうじてテントを張れそうな場所を見つけて行動終了とする。疲れて吐きそうだったが、それでも整地してテントを張り、雪をとり水を作り



り・・・と全てしなければならぬのが単独行の辛いところ。さすがに酒もほとんど喉を潤さなかった。ああ情けなや、すでに弱気虫が頭の中を駆け巡り、明日は降りようかなどと考えている自分がある。・・・残りの日程を温泉で過ごしたら極楽だよな・・・戻るなら

早い方がいいよな…。

2月8日 晴

朝の太陽が、心に少しだけ元気を取り戻してくれた。とにかく目先の烏帽子岳ピークを目指そうと出発する。

昨日の調子なら縦走は無理かと思ったが、烏帽子岳の先は尾根がなだらかになり、距離が稼げるようになってきた。しかし基本的には膝ラッセルが延々続く。池ノ平山の次は念丈と、目先の山を目指して頑張ると、遠くに見えた念丈岳にもいつの間にか着くことができた。ここまで思いのほか順調である。谷のはるか向こうに、目指す安平路山がある。決してアルペン的ではないが原生林に覆われ、どっしりした実に存在感のある山だ。そのさらに向こうの山並みは全く見えない。どんな風景が広がっているのか、ぜひあの山を越えて見てみたい。



念丈岳から先は一旦ぐっと下がって登り返し。これを突っ込んだら、もう戻ることは考えられない。覚悟を決め、進むことにした。下りきったところは与田切乗越。冬はめったに人が来ない山の中に、今一人立っていることの幸せ。しばし足を止め、ひと時の静寂を楽しむ。この風景、この時間は私だけのもの。

さて、ここからの登りは精神的に辛いかと覚悟していたが、割と楽に登ることができた。いよいよ越百山から安平路へ続く中央アルプスの主稜線に乗る。藪はおおむね埋まっていて、歩きやすい疎林の尾根だ。

奥念丈の先、袴腰山の山頂を越えたあたりで C2。まだ日没には間があったが、今日もうへろへろだ。早めに休んで明日に備えよう。

2月9日 曇り後雪

今日は次第に悪天となることが確実だが、安平路山を越えなければ帰れない。視界こそよく効くものの、飯田盆地は朝から低い雲で一杯になっている。時間とともに鷲ヶ岳、御嶽、空木と次々傘雲がかかっていく。山頂までもってほしかったが、着く直前にガスと雪がやってきた。ようやく着いた安平路の山頂は樹林の中で視界も利かず、先を急ぐ。



ここから先樹林帯なので厳しくはないが、地図読みがなかなか難しく神経を使う。避難小屋で積雪は 1.5m くらい、入れそうなどころがあったので入ると物置であった。正しい入口を探すのも面倒なので、そのまま進む。ここから先の白ピソ山もなかなかでかい。たかだか 100m の登りなのに、なかなか登りきらない。気がついたら 2 時間以上もかかってしまい、愕然とする。まるで狐にでも化かされたような気分である。

ようやくこれを越えたものの、雪は本降りです。今後ラッセルが厳しくなりそうだ。まして摺古木山から木曾峠は複雑な地形が延々続く。下手をすると最終下山に間に合わないかと思うと、もう摺古木山から林道へ下山と言う気持ちになってしまった。たまたま携帯電話がつながったので、下山する旨をメールした。

1ヶ所、尾根を右に回って登る。何とか摺古木山に着き、山頂から10m降りたところでC3。

下りるのは決めたものの、道は迷いやすく雪崩も起きやすいルートだ。果たして無事下りられるだろうか。夜中に不安で目が覚め、地図を見返す。



2月10日 晴

まったく幸運にも、朝から晴れていた。これなら道に迷う心配はない。新雪は50cmくらい。もう一度摺古木山の山頂に登り、展望を楽しむ。南の山並みの向こうには、盆地が広がっている。中津川の町だ。山を越えてきたという感慨がひしひしと沸きあがる。できれば木曾峠まで行きたかった。

登山道は全くわからないので、風穴山から尾根通しに下りて林道を目指す。針葉樹やしゃくなげの幼木が、いたるところで落とし穴や迷路を作っていて、なかなか苦労する。南に見える尾根上には、アザミ岳が白く美しい姿を見せている。ほとんど知られていないが、こういういい山はまだある。近いうちぜひ登ってみたい。ようやく林道に下りたが、もちろんトレースはない。延々とラッセルは続く。しかも次第にダンゴとなり、とっても消耗する。頭の中は（膝、膝、すね、膝、膝、膝上、膝・・・）とエンドレスに繰り返されている。

へろへろになりながら、ようやく太平宿に着いた。ここは廃村なのだが、地元有志の尽力により、建物が保存されている。もちろん冬は誰も住んでいない。山あいには昔ながらの学校や家がひっそりと並ぶさまは、実に趣がある。

集落の中心まで出ると、なんとトレースがあるではないか。飯田方面から集落に泊まりに来たらしい。本当は、ここから南木曾へ抜けてこそ計画完遂と頑張ってきたのだが、南木曾に行くならさらに延々ラッセルが必要で、しかももう一泊しないとイケない。もうラッセルは御免と、トレースを辿って飯田方面に向かう。

トレースはあっても、道は長い。峠を越えても飯田の町は全く見えない。次第に日は暮れ、振り返ると西の空に、オレンジ色に染まった小さな雲がぽっかり浮かんでいる。昔の人も、きっとこんな景色を眺めながら飯田まで歩いたのだろう。考えたら朝から一度も小便をしていなかった。出すと体が少し元気になったのは、新しい発見だった。途中で日が暮れたが、無心で歩く。除雪の終点になっても町は見えないし携帯電話もつながらないので、さらに歩く。行く手の谷間のすき間から突然、星のように町の明かりが見えると同時に、携帯電話がつながった。太平宿からここまで約20kmはあろうか。タクシーを呼び、ようやく飯田の町に着くことができた。

ともかく無事に下りてくることができ、ホッとしています。パーティーやバックアップしてくれる仲間のありがたみというものをつくづく感じました。



一方、今の自分の力を知る上で実に有意義な山でした。今回このような山行を送り出してくれた会の皆さんに本当に感謝しています。

- 【行程】 2/7 片桐神社(7:30)～鳩打峠(8:40)～小八郎山(10:10)～烏帽子岳手前
C1(17:10)
2/8 C1(6:00)～念丈岳(11:05)～奥念丈岳(13:00)～袴腰山C2(15:15)
2/9 C2(6:15)～安平路山(9:15)～白ピソ山(12:45)～摺古木山C3(15:50)
2/10 C3(6:55)～林道(10:25)～大平宿(15:00)～除雪終点(18:30)
～タクシー(19:20)～飯田駅(20:00)

【地図】 空木岳、安平路山、飯田

